

「早町小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

喜界町立早町小学校

2 学年・人数

全学年 66人

3 日時・場所・時数

(1) 練習の日時・場所

低学年 体育（4時間）

中学年 総合的な学習の時間（5時間）

高学年 総合的な学習（6時間）

9月10日（木）早町小学校体育館

9月12日（土）早町小学校体育館

9月17日（木）早町小学校体育館

9月24日（木）早町小学校体育館

9月28日（月）早町小学校校庭

(2) 発表の日時・場所

10月4日（日）早町小学校運動会（全児童）

11月17日（火）全校児童集会（全児童）

12月15日（火）音楽集会（4年生）

2月17日（水）学習成果発表会（全児童・4年生）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

八月踊り「みんちゃさやー」「すんがねいかー」

(2) 由来

「五穀豊穡」を願う神社の豊年祭の折りに踊られている。島内の37の集落で唄や踊りに違いがあり演目も10曲前後から20曲と様々である。由来については、平清盛によって島に流され、悲劇の生涯を終えた「僧俊寛」の霊を慰めるために、島の人たちが輪になって踊ったとされる説、壇ノ浦の合戦に破れ喜界島に流れ着いた平家主従を迎え、彼らを慰めるために輪になって踊ったとされる説など様々である。

(3) 構成等

八月踊りはウタシャー（唄者）、テーコタタキヤー（太鼓たたき手）、ハトフキヤー（指笛を吹く人）、ウドゥヤー（踊り手）で構成され、太鼓たたき手が拍子を取り、唄者が唄い、踊り手が唄に合わせて踊り出し、指笛が盛り上げる流れで構成されている。

輪の半分の人が唄い、唄った歌詞の内容に答える形で残りの半分の人が唄う、掛け合いの形になっている。即興的な掛け合いの歌であったが、今では、唄い継がれている歌詞をみんなで唄いながら踊るという形で継承している。

5 保存会や地域との連携の具体

八月踊り継承のために、5回の練習に地域の方がゲストティーチャーとして来校し、指導してくださっている。

自己紹介の中で集落のことや集落での児童との関わりについても話題にしてもらい、ゲストティーチャーを身近に感じてもらえるように工夫している。また、練習では、少人数のグループで活動し、コミュニケーションを図りながら、踊りや唄をじっくりと指導していただいている。

さらに、運動会では、ゲストティーチャーの方にも参加していただき、踊りの輪に入ってもらい、運動会を盛り上げていただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

廊下のロビーに八月踊りの歌詞と絵を貼り、1～4年生にも歌詞の意味を分かりやすく覚えてもらうようにした。可視化することで、歌詞の全体的な意味だけではなく、歌詞に使われている方言の意味理解にもつながっている。



7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

- ・ 「みんなちゃさやー」や「すんがねいかー」はテンポが速いので、楽しく踊れた。
- ・ 歌詞の意味が分かると、2番、3番の歌い出しがスムーズに出てくるようになった。
- ・ 地域の方を見ながら踊ると上手に踊れるようになった。
- ・ 唄・太鼓・三味線・踊り、全部できるようになりたい。

【教職員】

- ・ 5回の練習に地域の方がいらしてくださり、伝統文化継承への思いが伝わってきた。
- ・ 八月踊りを始めると、子供たちがいつも笑顔で踊り、唄の少々失敗も笑い飛ばして、また、唄い始める。自分たちで楽しむことができています。
- ・ 運動会で踊ることを目標に練習し、本番では、唄・三味線・太鼓・指笛・踊り手がそれぞれのところで盛り上げ一体感を感じることができた。

【地域の方から】

- ・ 子供たちは覚えるのが速いので、教える方も子供の姿を見るのが楽しかった。
- ・ 「自分たちに教えられるものがある」「教えたい」という思いが回数を重ねるごとに増していき、生きがいを感じる事ができた。